



各 位



2019年5月10日

会社名 価値開発株式会社
代表者名 代表取締役社長 高倉 茂
(コード番号 3010 東証第2部)
問合せ先 取締役管理本部長 秋山 耕一
(TEL:03-5822-3010)

通期の連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2019年2月20日に公表いたしました2019年3月期通期(2018年4月1日~2019年3月31日)の連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 予想値と実績値との差異について
2019年3月期通期の連結業績予想値と実績値との差異(2018年4月1日~2019年3月31日)

(金額の単位:百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A) (2019年2月20日発表)	4,940	△270	△585	△2,895	△199円86銭
実績値 (B)	5,084	△358	△704	△2,960	△200円11銭
増減額 (B-A)	144	△88	△119	△65	—
増減率 (%)	2.9%	—	—	—	—
(ご参考) 前年実績 (2018年3月期連結会計年度)	4,660	△321	△466	△413	△30円79銭

2. 差異の理由

当社グループは、ホテル事業をメイン事業として行っております。

売上高の差異の主な要因は、第4四半期連結会計期間において中長期滞在型ホテル『バリュー・ザ・ホテル』の業績が計画時点の想定を下回ったものの、都市型ビジネスホテル『ベストウェスタン』の稼働率及び客室単価が堅調に推移したことにより計画時点の想定を上回ったことなどによるものであります。

営業利益の差異の主な要因は、売上高が計画を上回った一方で、ベストウェスタンホテルフィノ大阪北浜の開業費用として70百万円を計上したことや運営する既存ホテルの人件費、清掃費、旅行代理店等手数料、水道光熱費などの運営費用が計画を上回ったことなどによるものであります。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の差異の主な要因は、主に営業損失が計画を下回ったことなどによるものであります。

以上